



狩野昌運筆「桜に馬図」(部分)〔購入資料〕

第32回新収蔵品展

ふくおかの歴史とくらし

令和2年9月15日(火)～令和2年11月29日(日)

企画展示室

開催にあたって

福岡市博物館は、今年の10月で開館30周年を迎えます。開館の7年前(昭和58・1983年)に博物館建設準備室が発足して以来、考古・歴史・民俗・美術の各分野にわたる博物館資料の収集を続けてきました。寄贈や寄託、あるいは購入によって収集した資料数は17万件以上にのぼります。

収集した資料を後世に確実に引き継ぐとともに、展示や研究に有効活用するため、当館では、新たに収蔵されるすべての資料について調査と整理を行い、そのリストを『収蔵品目録』として刊行しています。また、目録刊行にあわせて、博物館の資料収集活動を広く市民の皆様にご知っていただくため、『新収蔵品展』を開催し、新たに加わった資料をご覧いただける機会を設けています。

32回目を迎えた今回は、『収蔵品目録』第35号に掲載した平成29年度収集資料2211件の中から「ふくおかの歴史とくらし」に関わる厳選した約80点の資料を展示します。

一 ふくおかの歴史―江戸時代を中心に

玄界灘に面した福岡は、古くより人や物が行き交い、交易や争いの舞台にもなった地です。そのなかで江戸時代の福岡を治めたのは、黒田長政を初代藩主とする福岡藩(黒田家)でした。本コーナーで紹介する家々に伝来した品々は、およそ270年にわたる福岡藩の時代を生きた人びとの活動の一端を教えてください。

初期の福岡藩では、三奈木黒田家や栗山家など、黒田家の筑前入国以前からの家臣が藩政の中枢を担い、藩主を助けました。

江戸時代、政治社会体制が整い「泰平の世」になると、甲冑や刀剣は実戦的なものから遠ざかりますが、武士たちは、非常時への備えとして、また威厳を示すための手段として武具を所持し、日々鍛錬を怠らなかつたといえます。武具の製作や修理には、藩お抱えの具足師(甲冑師)、刀工や弓師などの職人が携わりました。

また、学者や医者など専門的な仕事で仕える家臣もいました。福岡藩を代表する学者・貝原益軒や亀井南冥・昭陽父子らは、福岡の歴史や文化にかかわる功績を数多く残しました。

江戸時代後期、福岡藩には約6000人の家臣がいたとされています。幕末には、海外情勢を知るために自ら進んで情報収集していた藩士もいました。

武士の世が終わると、人びとの生活も大きく変わりました。代々の家業を続ける人もいましたが、新たな職業に就いたり地方や中央の政治経済に深く関わる人も出てきました。



市内の旧商家にあった玄武岩でつくられた中世～近世の碓石〔石橋善弘資料〕



波田家に伝来した黒漆塗形兜・白糸威二枚胴具足〔波田洋一資料〕



【右】福岡藩士喜多村家(不破家)に伝来した刀〔不破保資料〕



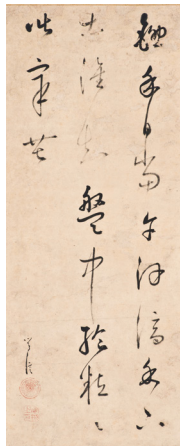
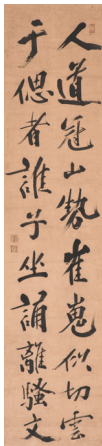
【左】薩摩藩士和田家に伝来した宮原主水正清作の刀〔蛸子正子資料〕



藩政の初期に起こった黒田騒動の顛末を記した「栗山大膳記」〔購入資料〕

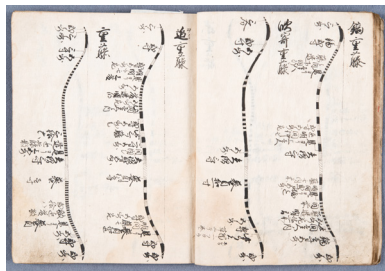


三奈木黒田家初代・黒田一成の肖像画〔寄託・清若寺資料〕

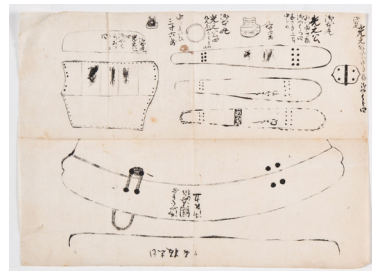


【左】
福岡藩の学者・貝原益軒の書跡とされる漢詩〔木村和男資料〕

【左奥】
福岡藩の儒学者・亀井昭陽が書いた二行書〔深川修資資料〕



福岡城下に居住した弓師・山本家に伝わった弓の製法秘伝書〔山本俊子資料〕



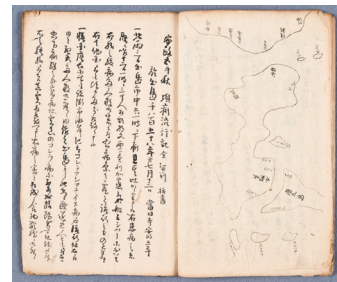
黒田家歴代の甲冑の修理を担当したお抱え具足師・田中家に伝来した甲冑修理の際の絵図。〔具足師田中家資料〕



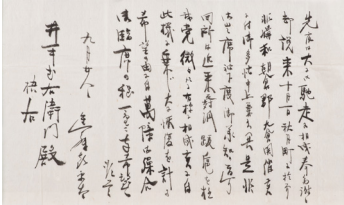
福岡藩医・塚本家に伝わった写真。明治以降は、農学者や医者になったものもいた〔塚本家資料〕



宗像郡曲村の医師・眞武家で江戸時代に使用された薬箱〔寄託・眞武淳一資料〕

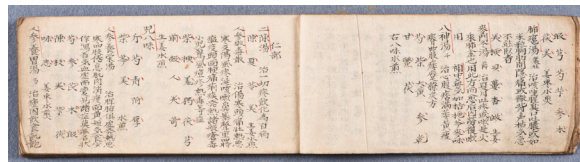


福岡藩士・白水家に伝来した古文書。幕末の当主が収集した海外情報の写本〔白水久米利資料〕



旧福岡藩士で玄洋社員の進藤喜平太より衆議院議員の井手武右衛門に送られた書簡〔中島米二資料〕

宗像郡曲村の医師・眞武家で使用された薬の調合法を記した「玄洋方全」〔寄託・眞武綾子資料〕



二 ふくおか文化―近世から近代

このコーナーでは、江戸時代から明治時代にかけての福岡にゆかりのある絵師の作品や工芸品などを紹介します。

福岡藩では、狩野昌運や尾形洞霄など、藩に召し抱えられた御用絵師のほか、民間で絵を描いて生計を立てる町絵師の存在が確認されています。絵師たちは依頼に応じて様々な絵を描きました。人物の姿をあらわす方法としては、紙や絹に描かれる肖像画をまず思いつくかもしれませんが、なかには仏師や細工物師によってつくられた肖像彫刻もあります。

江戸時代後期から明治時代にかけては、秋月藩(福岡藩の支藩)の御用絵師で、後に町絵師となった齋藤秋圃や「筑前四大画家」のひとり村田東圃の子、村田香谷らの活躍がみられます。また、文化人としての顔を持つ聖福寺の仙厓は、絵や詩を残しています。

福岡藩の焼き物文化を支えた高取焼は、文禄・慶長の役の際、黒田長政が朝鮮半島から連れてきた陶工の高取八山(八蔵)により直方市郊外の鷹取山麓ではじめられたとされています。時期によって窯の場所は移り変わりましたが、茶陶を中心に製作活動が続けられました。

また筑前国内では、盲僧が琵琶を弾きながら家々の竈の神である荒神のお祓いをするなどの活動がみられました。盲僧頭であった一丸家は明治時代、芸能としての筑前琵琶を成立させました。



【上】江戸時代の裕福な商家の夫婦とみられる肖像彫刻〔博多人形商工業協同組合資料〕

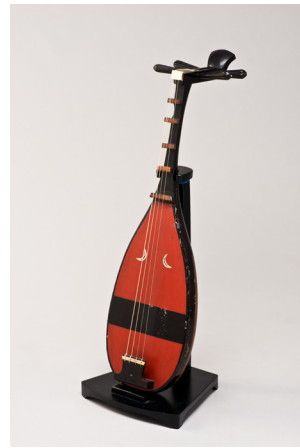


【右】福岡藩御用絵師・狩野昌運が描いた「白衣観音図」〔購入資料〕
【中央】福岡藩御用絵師・尾形洞霄が描いた楠木正成像〔二宮健資料〕
【左】村田香谷が描いた「蓮に蟹図」〔丸岡千草資料〕

【右】聖福寺の仙厓がつくったとみられる和歌〔荒巻信子資料〕

また、釣具のカタログや電気ミシンなど、日々のくらしのなかで何気なく使っていたものからは、持ち主の人生や人

三 ふくおかのかぐらし—近代から現代
本コーナーでは、明治時代から今日にいたるまでの人びとのかぐらしの様子を伝える資料を紹介します。
明治時代以降、鉄道による往来が盛んになると、主要な駅では弁当などが販売されました。展示する昭和時代の駅弁の掛紙からは時代や地域性が読み取れます。



江戸時代に筑前国の盲僧頭であった一丸に伝来した四弦琵琶〔永井彰子資料〕



福岡藩東皿山窯・高取家に伝来した高取家に伝来した高取の花立〔高取美智子資料〕



福岡博多絞店でつくられた絞り染め地の着物〔福岡さか枝資料〕



博多織元・中西家で使用された博多織製の丹前〔安松奈津子資料〕

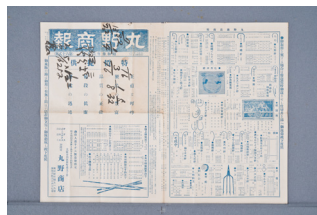


福岡県無形文化財技術保持者に認定された博多人形師・白水八郎が製作した人形「熊野」〔石井里子資料〕

なりを感じられるだけでなく、市民生活の多様性を知ることが出来ます。
また、今年には戦後75年を迎えた年でした。地図や軍服、辞令など、戦争の前後にわたる社会やくらしの様子を伝える資料のほか、市内にあった米軍基地の様子を知ることのできる写真などもご覧いただけます。



昭和初期の助産に関するテキスト『助産医学講義』と陳情書〔浅井孝資料〕



昭和初期に発行された通信販売用の釣具値段表〔林信博資料〕



駅で販売される茶を入れた汽車土瓶〔山崎暢子資料〕



昭和10～50年代に収集された駅弁の掛紙〔山本啓湖資料〕



昭和6(1931)年から80年以上家族の洋服を仕立てた電気ミシン〔岩片ハル資料〕



大正～昭和時代にかけて使用された福岡貯蓄銀行の算盤〔松村直寿資料〕



明治時代の列車の走行音などを収めたレコード〔池田善朗資料〕



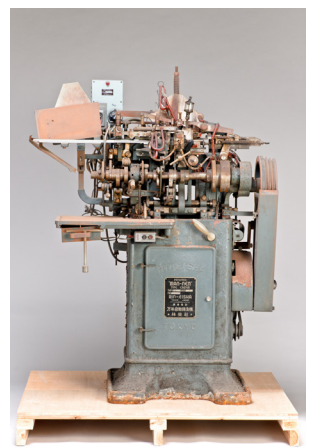
防空演習を記念した通信日付印〔池田陽一資料〕



昭和21(1946)年に発行された終戦直後の福岡市の地図〔山本寅雄資料〕



昭和15(1940)～17年頃に製作されたとされる福岡地方の立体地図〔堺光憲資料〕



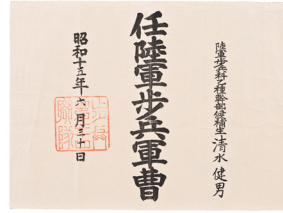
戦後、福岡の印刷会社で使用された自動活字鑄造機〔福岡印刷株式会社資料〕



昭和 39 (1964) 年に開催された東京オリンピックの絵葉書 [中村利幸資料]



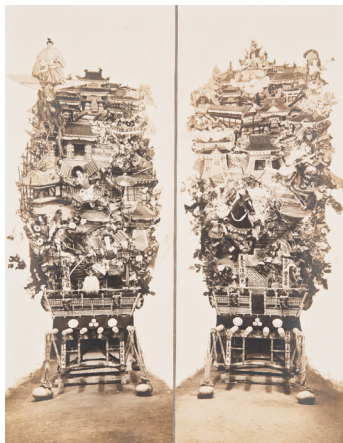
戦後、米軍基地に納入する洋服を仕立てた足踏みミシン [今坂幸子資料]



【上】戦時中に着用された陸軍の軍服 (印正俊資料)

【左上】昭和 15 (1940) 年に陸軍歩兵軍曹に任命された際の辞令 (清水昭男資料)

【左】板付基地内で撮影したとされる記念写真 (浅浦達恵資料)



大正 15 (1926) 年の博多祇園山笠
・土居流の飾り山の写真 [青木綜一資料]

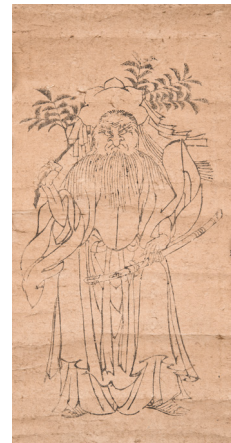


明治 4 (1871) 年の博多祇園山笠
・福神流の山笠の下絵 [購入資料]

今年(2020年)は新型コロナウイルス感染症の影響で、どんたく、山笠、放生会をはじめ市内の祭りや行事の多くが延期や中止、簡略化されています。このコーナーでは、くらしの安寧を願う人びとの心や祭りの賑わいを伝える資料を紹介します。

菅崎宮(東区箱崎)の秋祭り放生会は、生き物を放ち殺生を戒める行事です。かつて博多の人びとは、参拝がてら箱崎の松原に幔幕を張り、持ち寄った酒や料理で宴を催す「幕出し」を楽しんでいました。

福岡市内では、一年をとおして様々な年中行事が行われています。博多祇園山笠は、疫病除去を願って行われる櫛田神社(博多区上川端町)・祇園社の夏季例大祭の奉納行事です。神霊の依代とされる山笠は、下絵とよばれる設計図に基づいて製作され、祭りの終了とともに解かれます。



庚申信仰との関わりが考えられる
猿田彦命図 [八尋シノブ資料]



【上】菅崎宮の放生会の際の幕出しで使われていた幔幕 [太田隆二資料]

【右】7月13日の「集団山見せ」で着用した博多祇園山笠・中洲流の水法被。 [中原直八郎資料]

【左】市内の年中行事等で唄われる民謡歌謡の録音テープ [廣瀬正榮資料]



福岡市博物館 〒八四一〇〇〇一
福岡市早良区百道浜三丁目一番一号
☎〇九二一八四五五〇一一

- ご協力いただいた方々
(寄贈・寄託者名 / 五十音順 敬称略)
- 青木綜一 青柳陽子 浅井孝
 - 浅浦達恵 池田陽一 池田善朗
 - 石井里子 石橋善弘 今坂幸子
 - 岩片隆 印正俊 蛭子正子
 - 太田隆二 木村和男 堺光憲
 - 清水昭男 白水久米利 清岩寺
 - 高取美智子 田中雄助 塚本潔
 - 永井彰子 中島栄二 中原伊都子
 - 中村利幸 榎崎さか枝 西村順子
 - 二宮健 博多人形商工業協同組合
 - 波田洋一 深川修 廣瀬静枝
 - 福岡印刷株式会社 不破久二根
 - 細木朗子 前川陽子 眞武綾子
 - 眞武淳一 松村直寿 丸岡千草
 - 安松奈津子 山崎章一朗 山本啓湖
 - 山本寅雄

おわりに
本展の開催にあたり、貴重な資料をご提供いただきました皆様、厚く御礼申し上げます。また、ご観覧いただいた皆様には、この展覧会を通してふくおかの歴史と人びとのくらしについて、より一層の関心を寄せていただくとともに、福岡市博物館の資料収集活動に、ご理解とご協力をいただければ幸いです。